ちょっと世界がひろがるコミュニティ

きっかけ

Supported by 産経新聞

コミュニティで探る ユーザーの潜在ニーズ

テレワークで見えた「理想の住まい」

「きっかけコミュニティ」はこちらのQRコードから

最寄り駅から徒歩圏内／実家が一番！

【きっかけ】産経新聞社運営のオンラインコミュニティ。約1万7千人が参加し、自由に対話している。

実家（田舎）が一番です。今、介護＆看護のため一時的に実家でのリモートワークを許可されていますが、東京の狭い１Ｒとは比べ物にならない広さと開放感。（さくらさん）

趣味が釣りとスキーなので、釣りのできる海のそばか、冬のみスキーで有名な地域でワーケーションしたいです。しかし持ち家があるので、何かあればすぐ帰れるように空港か新幹線の近くに住みたいという条件付きです。（りりかんさん）

リモートワークできるとの前提で…静かなところが理想だけど^^;私はやっぱり近くにスーパーや医療機関が有る所だな～！（三つ子ママさん）

自然のあるところが良いけれど、自然災害が怖いので、都心に近いところが良いなあ。最寄り駅から徒歩圏内。車が無くても不便じゃないところが良いです。（ゆきしろさん）

コロナ前まで単身赴任でしたが、今はテレワークと出社を併用した勤務体制となっています。そのおかげで家族と過ごす時間が増え、今後の人生について考える良いキッカケとなりました。（傾聴さん）

リモートワークでも不便なところは嫌です。買い物も楽にできて、ある程度交通の便がいいところ。（とりこんずさん）

最近は色んな生活スタイルがあって自分に適したスタイルを選ぶことが出来れば幸せでしょうね。（エコさん）

テレワークが進むかどうかは業種によって大きく異なると思いますが、できる分野では積極的に推進されるとよいと思います。（そらいろハウスさん）

きっかけの種

海より山より…利便性と親のそば

コミュニティ「きっかけ」で集まった声からニュースを発掘します。

コロナ禍で首都圏を中心にテレワークが普及するなか、都会の企業に勤めながら海や山に近い地方で暮らす、テレワーク移住も新たなライフスタイルとして話題だ。国などは地方創生の好機と息巻くが、コミュニティ「きっかけ」の声を深掘りすると、「便利なところ」「親の近く」といった〝実益〟を重視する人々の本音が浮かび上がった。

「きっかけ」には全国10～70代の男女が参加する。「理想の働き方」と「在宅勤務を前提とした理想の住まい」について投稿を募ると、約1カ月で延べ700件超の声が集まった。

投稿では、地方に憧れつつも「スーパーと病院が近くにあるのが最低条件」「お店・銀行・病院・図書館などの近い場所」と、利便性を重視する声が多かった。「レッスンや観劇しやすい環境」と、娯楽の充実を求める人もいた。

在宅勤務やコロナを機に家族との絆を意識する人も増えたとみられ、「実家が一番」という声も。「母親の美味しい手料理が食べられる！」「（親兄弟や友人と）ちょこちょこ会える距離感で生活と仕事がしたい」と、実家近くを希望する人も多かった。

内閣府の昨年12月調査では、テレワーク実施率は全国21.5％、東京23区は42.8％。就業者全体の36.7％がテレワークを希望しており、今後も広がると予測されている。

日本で起きた「初転換」

LIFULL地方創生推進部 小池克典さん

「コロナを通じて〝働く場の制約からの解放〟という初めての転換が日本で起こっている。住む場所の選択肢が増えた」と、不動産情報サービス会社「LIFULL」地方創生推進部の小池克典さん。空き家を宿泊可能なコワーキング施設にし、地域以外の労働者が働ける場を広げている。

地方の課題はまだまだ多い。「施設をきっかけに交流人口が増えれば、地域の魅力向上や課題解決にもつながる。不透明な時代だからこそ、自分らしい働き方や創りたい未来へ向けて一歩踏み出してほしい」と話している。

きっかけ取材班から

長引く自粛　コロナ禍の心情変遷は

当初は新しい生活様式楽しむも…

新型コロナウイルスの感染が収束しないまま、１年以上がたった。今も多くの地域が３回目の緊急事態宣言下にあるが、コロナ禍のユーザーの心情はどう変化してきたのか―。「きっかけ」内のコメントを追うと、当初は新しい生活様式を楽しむ気持ちがあったものの、長引く自粛生活に感じる限界が見て取れる。

「きっかけ」がオープンした昨年８月末、世間では〝ニューノーマル〟な生活が浸透し始めた頃だった。「教えて♪生活の変化をきっかけに新しく始めたこと」というテーマには、ガーデニングやお菓子作りなど、新しい趣味を始めたというコメントが相次ぎ、新しい生活を楽しもうとする姿も垣間見えた。

対して今年５月、「３回目の緊急事態宣言　１回目、２回目とどう違う？？」の問いかけに集まったのは、自粛を継続せざるを得ないやるせなさと、収束しないことへの不安や不満の投稿。「１回目の緊急事態宣言の時よりも、お店は開いてるし緊張感がないです。（@まっつんこさん）」など、当初と比べて気の緩みが出ていることへの警戒感や、「もうあきあきしています。（野うさぎさん）」「ウンザリと言うのが本音です。（タックンさん）」など、目新しくもなくなった自粛生活に複雑な心境を吐露する人が多かった。

唯一希望の光となっているのがワクチン。「接種が始まったのでもうすこしの辛抱（ラベンダーさん）」など、ワクチンに期待しつつ、コロナが収束するまで我慢しようという決意も多数見られた。

「きっかけ取材班」ツイッター始動

産経新聞社が運営するコミュニティ「きっかけ」は、公式ツイッター「きっかけ取材班」（@sankei__kikkake）の運用を開始した。「きっかけ」内で交わされたユーザー同士の会話の中から、産経新聞記者らが気になるコメントをピックアップする。「きっかけ」を通じて世の中のさまざまな動向に対するユーザーの本音を探る企画「きっかけの種」の紹介や、パートナーコミュニティのニュース発信なども行う。

アカウントのフォローは右QRコード、もしくは「きっかけ取材班」ツイッター（https：／／twitter.com／sankei__kikkake）へ。